第15回　**全国高校生英語ディベート大会 “Online”**

**出場校選抜基準**

2020年7月20日

HEnDA理事会・審査委員会

# 基本方針

1. 全体として従来の選抜方針は大きく変えず，各都道府県の大会開催とブロック大会（オンライン・オフライン）を呼びかける。
2. 都道府県大会の開催を後押しするために，条件Bや，条件Fでは，自前で県大会を開いた県が優遇されることになる
3. ただしコロナ情勢を受け，出場希望校が複数ありながらも諸事情により都道府県大会を開けない県については，HEnDA主催で合同予選会を行い，各参加県の１校は全国大会に出場可能とする。
4. 都道府県内で一校しか参加希望校がない場合には，今年度に限り県大会なしでも，参加を認める

総則

1. 出場枠の総数：出場枠の総数は64とする。[[1]](#footnote-1)
2. 出場枠の割り振り：各都道府県（以下，「県」と略）と各校の出場枠は，以下の条件AからFの割り振り基準に従い，順に割り振られる。
3. 各大会の条件：以下の基準で言う都道府県大会（以下，「県大会」）と，幾つかの都道府県にまたがる大会である「ブロック大会」として認定されるには，その大会が①HEnDAのMake Friendsの精神にのっとり，②今年度の全国大会と同じ論題を用い，③ほぼ同じルール・試合形式で行われ，その都道府県や該当ブロック内にある高校で，④全国大会に出場する資格のある県内の高校に参加を閉さず，⑤全ての参加チームが最低でも2試合（肯定側・否定側，各一試合）に出場し，その結果で予選選抜が行われていることの5条件を満たしている必要がある。[[2]](#footnote-2)　県大会・ブロック大会はオンラインでの開催であっても，従来通りの対面型（オフライン）の大会であっても構わない。

「ブロック大会」の認定については，さらにa) 参加校数が10校を越え，b) 特定の都道府県からの参加チーム数が参加総チーム数にしめる割合が4割以下に抑えられている，という二つの条件を満たしていることとする（条件D,Eおよび，解説を参照）。[[3]](#footnote-3)

1. 各県の出場校：各県大会の出場枠が確定後，原則として，その県大会で上位の成績をおさめた学校を優先して実際の出場校を選抜する。ただし条件Dのブロック大会出場枠を確保した学校は，条件Dで出場したものとし，その学校の所属県が獲得した条件A, B, E, Fの枠からの出場校については，条件D校を除いた上位が出場する。[[4]](#footnote-4)
2. 補欠校：選抜後に出場を辞退した学校があった場合，まずは出場を辞退した同一県から補欠校を探す。それが不可能な場合は，条件Fを参照し他県から補欠校を探す。大会直前の出場辞退などで，万が一，総出場校数が奇数になる場合は，全国大会開催県もしくは近隣県より，主催者の判断により追加チームの参加を認める。

# 出場枠の割り振り基準

|  |  |
| --- | --- |
| 条件A　開催県枠変更 | 次年度開催県には，1枠を割り振る。 |
| 条件B　県大会選抜枠 | 県大会が開催された県については，その年の県大会に実際に参加した学校数に応じ，さらに以下の出場枠を割り振る。参加校数 **11校**以上 出場枠2 **11校**未満2校以上 出場枠1  |
| 条件C 参加困難県の特例枠変更 | ある県より，ただ一校だけ参加希望があった場合は，（今年度のみ特例として）その学校がいずれかのブロック大会か合同予選会に出場したならば，県代表としてその学校の出場を認める。 |
| 条件D ブロック大会優勝校枠　 | 当年8月以降11月初旬に行われる，連盟が認定したブロック大会の優勝校には，全国大会への出場資格を与える。[[5]](#footnote-5) |
| 条件E 合同予選枠追加 | 県からの出場希望校が複数あるが，諸事情により県大会が開かれない県については，HEnDAの主催する合同予選会（10月か11月予定）に出場した学校のうち，各県内の成績優秀校に特例として1校は出場を認める。[[6]](#footnote-6) |
| 条件F　追加選抜（ドント式）**変更** | 以上の選抜後，さらに余枠がある場合は，追加出場希望を応募した県の学校への追加選抜を行う。追加選抜は，県大会を開催し，条件AからEにより1枠のみ割り振られている県を優先し，まずは下記a)の原則に従い，一枠ずつ追加する。それでも余枠がある場合，さらにb) 県大会開催県3枠目以降，c) 合同予選会参加県2枠目以降，さらにd) 残余枠配分と追加を続ける。a) 県大会を開催し，かつ条件AからDにより1枠だけ出場が決まっている県のうち，県大会への参加学校数の多い県を優先して出場枠を一つずつ追加する。a1) 県大会の参加学校数が一致した場合は，抽選で順位を決め追加を行う。b) 上記a)の追加後，さらに余枠がある場合。県大会を開催した県について，既に上記a)での追加のあった県を除いて，以下の方式で追加枠を一つずつ配分する。その県に既に割り振られた全ての枠数に1を加えた数を分母に持ち，その県の県大会に参加した学校数を分子に持つ分数を，各県について計算する。その分数が大きい県を優先し一枠ずつ追加する。b1) この分数が一致する県が複数ある場合，既に出場決定した枠数が少ない方を優先する。b2) この分数だけでなく，決定済み枠数も一致する県同士については，抽選して順位を決める。c) 上の追加が県大会開催県にゆきわたった結果，まだ余枠がある場合には，合同予選会に参加した県のうち，1枠だけ出場が決まっている県（条件Dブロック枠での出場のない県）について，合同予選会への参加学校数の多い県を優先して出場枠を一つずつ追加する。c1) 合同予選会への参加学校数が一致した場合は，抽選で順位を決め追加を行う。c2) さらに余枠がある場合は，合同予選会参加県の内，条件Dブロック枠での出場のある県にも，同様の基準で追加配分を行う。d) 上の追加が全ての県にゆきわたった結果，まだ余枠がある場合には，さらに既に割り振られた枠数に1を加えた数を分母にして分数を計算しなおし，b)と同様の優先順位で，さらに1枠ずつ追加選抜を行う（このd）では県大会開催，合同予選会禍出場の区別は行わない）。ただし同一県からの出場校は原則最大で4までとし，4に達した県を除外して優先順位を付ける。それでも余枠がある場合にのみ，5枠目以降の追加も続ける。 |

# 参考　条件Fでの出場校枠

　2019年度　5校　ブロック出場校3校

2018年度　10校　ブロック出場校3校

2017年度　12校　条件Bを「11校以上」と厳しくする

2016年度　6校

# 参考　2019年度　ブロック大会

|  |
| --- |
| 第5回　高校生英語ディベート大会関西ブロック大会in滋賀8月25日　会場：滋賀県立膳所高等学校主催者・地区　全国高校英語ディベート連盟HEnDA関西ブロック |
| 第1回　Make Friends Cup in Fukui 9月24日　会場：福井県教育総合研究所主催者・地区　福井県高教研英語部会 |
| 第1回高校生英語ディベート大会　Make Friends Cup in Chuo University8月19日　会場：中央大学主催者・地区　Make Fiends Cup大会運営委員会 |
| 第5回　高校生英語ディベート東海地区ブロック大会10月14日　会場：岐阜聖徳学園高等学校主催者・地区：　全国高校英語ディベート連盟HEnDA東海ブロック |

1. 条件A, B, C, D, E枠の合計が64を越えた場合のみ，追加もありうる。 [↑](#footnote-ref-1)
2. ⑤の条件，どのチームも最低２試合，肯定側・否定側の両方を行うということの主旨は，一試合だけで敗退が決まる，例えば甲子園式のトーナメント式の予選は行わないことである。これは二つの理由による(1)教育的観点――試合経験は生徒の成長に寄与するものであり，本来，多い方が望ましい。それだけでなく，例えば6人のチームメンバーのうち出場機会の全くないメンバーがいることも避けるべきである。(2)大会としての公正性――予選試合を何試合か行った後での結果選抜でないと，努力が報われにくくなる。運の要素を排除するためには，なるべく多くパワーペアリング式の予選を行うことが望ましい。県大会・ブロック大会によらず，①から⑤までの条件を満たしていない場合，B,D,E,Fの適用を停止または制限もありえる。例えば，条件B,Fでの出場校枠を獲得するための，数あわせだけの学校の算入は認められない。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 県大会・ブロック大会の出場資格を制限する際には，公平・客観的・合理的な規準に則っていることが求められる。

認められる制限の例：①地域的な制限：東北6県のみのための大会，等。②チーム数制限：総数○○チームまで受け入れるが，出場県ごとに何チームまで先着順・抽選等で制限する，等

認められない制限の例：全国大会で出場の認められている学校を排除する規定（特定県だけの排除，私立校だけの排除，イマージョン教育校の排除など） [↑](#footnote-ref-3)
4. 全国大会への出場は，募集要項に則り，期日までに全国大会の応募書類等の提出が完了していることが大前提である。県大会やブロック大会での出場後自動的に参加登録がされるわけではない。 [↑](#footnote-ref-4)
5. 連盟の認定するブロック大会については，連盟HPを参照。Dのブロック大会枠は，事前に連盟が認定したブロック大会についてのみ適用する。優勝校にのみ権利が与えられ，同じ学校が複数のブロック大会で優勝した場合，見かけ上，特定のブロック大会での出場枠がなくなることもありえる。 [↑](#footnote-ref-5)
6. 合同予選会に出場したある県の最優秀校が条件Dブロック枠で出場を決めている場合には，その学校は条件Dでの出場とする（上記総則4.）。その場合，条件D校を除いての成績優秀校を当該県条件Eでの出場校となる。（昨年までの旧条件Eブロック大会準優勝特例は今年度は条件Cが緩和されたので設けない） [↑](#footnote-ref-6)